

Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

Vol.14

第二回活動評価促進部会開催

第二次ボランティア活動推進計画案の承認を得るはずだった第二回活動評価促進部会でしたが、一部訂正を求められるなど、時間の制約に阻まれ審議未了により承認を得るまでには至りませんでした。今回も熱い議論が飛び交いました。



第2回活動評価促進部会の様子

福祉のまちづくり促進部会から

これまでの活動報告と今後の活動の方向性について、報告しました（詳細はVol.13参照）。そして、部会委員の皆様からは▼検討中の評価シートには、障害者手帳取得者数の標記はあるが、精神

障害者は手帳を取得していない場合も多く、正確な数字が把握できていない。そのような人たちが実際に避難所へ避難し発症してしまう場合も想定されるといふことを認識しておく必要があるのではない

か？（大野）▼数年前に行政施策の一環で、障害児の情報について情報公表に承諾して公表したのにも関わらず、実際に民生委員への情報公開へつながらなかったことがあった。そのため、障害児を持つ母親としては、自分の子どもたちがこのような避難所へ避難させようとは考えておらず、活動のイメージがつきにくい。（町山）▼民生委員の活動では、担当地域の要援護者（一人暮らしや障害を持つ方等）の情報については、どの部屋で寝ているのか？と言っ

た情報まで確認する民生委員もいる。（ただし、時代と共に温度差も大きい）（世古）▼地域実態を把握するにあたり、重度の要介護認定高齢者（要介護3〜5）の実数も把握すると良いのではないかと（片岡）といったご意見を頂くことができました。

これらの議論の中でも浮き彫りとなったのが「災害時の情報公表や情報伝達におけるシステムが十分に確立されていない」という現状です。行政で把握している情報は情報公開条例に基づいた情報公開がなされているとはいえず、「個人情報保護」の壁は大きく、行政の各管轄や関係機関の枠を超えて「災害」という切り口から適切に情報を公開していくことには、多くの検討課題が残されていると言えるでしょう。また、行政に頼るのみならず「民間をベースの情報発信の環境づくり」といった新たな視点からの検討の必要性もご意見として頂くことができました。

今回いただいた意見を部会

内で確認していくとともに、各関係機関とも連携を取りながら、今後の活動展開を考えていきたいと思えます。（稲積）敬称略

ボランティア活動促進部会から

事務局より、第二次ボランティア活動推進計画（案）について報告し、意見をいただきました。

前段（事業計画の前置きの部分について）

総体として、一部の委員から「文章表現が『教科書的』だとする指摘を受けました。その内容についても「前段、ボランティア・市民活動の概念に関する記述に多くの頁を割いているが、三浦市内で実際に起こなわれている活動について明示した方が、より市民に伝わるのではないかと（大野）」との意見が聞かれました。一方で、「前段の記述は、基本的な事項だと思ふ。市民の理解を促すためには必要なのではないか（片岡）」「ボランティアとはどういうものなのか」とボランティア自身が



第2回活動評価促進部会の様子

原点に帰ることのできる文章だと思ふ(片岡)」「(ボランティアとして)勉強しなおさなければならぬと感じた(世古)」と、内容を評価する意見も挙がりました。文章表現については好みもあるため、事務局は作業部会で決定した意見を尊重することにしました。

また、前計画の評価について「前計画の評価は、今計画の策

定において最も重要な作業の一つだと思ふ。それが、文章表現なしの「表」だけというのはいかがなものか。何故このような評価になったのか、前計画の反省を踏まえつつ、今回の計画にどのように活かすのかを示してはどうか(片岡)」「評価が低調であることを誤魔化しているような印象を受ける(大野)」といった厳しい意見も飛び出しました。これに対し事務局は「誤魔化すつもりなどない。評価表を見ても計画の進捗が低調であったことがわかるはずだ」と反論。「だとするならば、そのとおり、率直に書けばいい(大野)」「言い訳がましいような感じがする(町山)」との指摘を受けました。結果、前計画の評価の記述については、再び審議することになりました。

以下、各委員からいただいた意見です。

ヒト(人材育成)

▼事業計画が、優しく丁寧に書かれている(世古) ▼三浦市におけるボランティア・市民活動に関する事例が紹介しており、

その活動の豊かさを感じ入った。地域の中には多様な人材が存在する。その一人ひとりが力を発揮し、また、一人ひとりの力が、地域を活性化させる大きな原動力となっていく。これは三浦市の財産となろう。問題は、一人ひとりが持っているその力を、いかにして一つのプログラム(事業)に結びつけていくか—ということではないか(大野)

モノ(施設・設備、活動場所の確保)

「モノ」に関する施策で議論が集中したのは以下の二点です。

まず、「(仮称)ボランティア活動実績紹介票」について、「どのような使途を想定しているのか? (大野)」という質問がありました。

「(仮称)ボランティア活動実績紹介票」は「社会的に認知度の低い活動や誤解や偏見を払拭できないでいる活動団体が、主体的に活動場所を確保するための支援策として、当該団体の活動実績を記した『票』を発行する」として計画化し

たものです。

大野委員の質問に事務局は、ボランティア活動推進部会において聞かれた「作業所を移転する際に、近隣住民からの理解・信用を得るのに苦労した」とする体験談をもとに「その信用保証策として、社協や市役所にできることを提案した」と説明。

また「住民からの理解が得られず反対されたりするのは、活動の初期段階であろう。活動実績のない団体の信用保証をするのは難しいのではないか(大野)」とする質問に対し「そういう場合は、住民懇談会の開催を支援するなどして対応したいと考えている(事務局)」と説明し、理解を得ました。

次に「公共施設利用料の減免措置」について活発な意見が聞かれました。定期的に公共施設を利用してはいる委員からは、減免のルールづくりの必要性についての意見が挙がり、この施策に対するニーズの高さを伺い知りました。

「公共施設の利用についての明確な定義がない。私たち(当

事者団体)は、市からの提案があつて利用料の免除を受けているが、提案を受けていない団体は知らないと思う(町山)」「活動が豊かになるためには、当該団体の公共施設利用料は『減免』でなく『無料』にするべき(大野)」等の意見も飛び出しました。

今後の予定

今会議では「カネ(活動資金の確保)」以降の審議ができなかったため、急遽四月二十五日にボランティア活動推進部会と活動評価促進部会を同時開催し、計画の完成をめざすこととなりました。

編集後記

▼今回は更に熱い議論が巻き起こるような気がします。時間との兼ね合いもありますが、いい計画にしたいです(杉崎) ▼疲れがピークです。しかし、ここが正念場。愚痴は言っていない(佐藤) ▼年度を跨いでしまった! 申し訳ない(出口) ▼杉崎は、今本当にいい経験をさせていただいてると思います。もう少した。頑張れ!(高井)

次回 ボラ部会
四月二十五日(木)
オブザーバー大歓迎